活力ある教育活動・魅力ある学校経営の推進を目指して

令和７年度　第63回岩手県小学校長会総会

第六十三回岩手県小学校長会の総会が、四月十八日（金）、県内十三地区から二百五十四名の会員（会員総数二百六十名）が出席し、都南文化会館（キャラホール）を会場に開催されました。

総会で選出された川村憲弘会長（盛岡・津志田小学校）は、挨拶の中で、子どもたちと教職員の笑顔を増やし、活力ある教育活動、魅力ある学校経営の推進を目指し、「会員同士や行政等とのつながり」「学び続け学び合うこと」「魅力ある教職員を育てること」を大切にしていきたいと訴えました。総会の内容は、次のとおりです。

総会Ⅰ

一　開会の言葉　　長兼服務管理監　佐藤孝之　氏
二　国歌斉唱（斉唱）　　佐藤隆司（久慈）
三　会長代行挨拶　　川村憲弘　会長代行
四　感謝状の贈呈
　退会者五十六名
五　退会者代表挨拶　　前川岳詩　前会長
六　来賓祝辞
　㈠　岩手県教育委員会　教育長　佐藤一男　氏
　㈡　岩手県市町村教育委員会協議会　会長　多田英史　氏
七　岩手県教育委員会行政説明　㈠　教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課　学校教育室首席指導主事兼義務教育課長　佐々木淳一　氏
八　被災地状況報告　　片方元昭（宮古）　高室　敬（気仙）

総会Ⅱ

九　議長選出・署名委員委嘱・書記任命
十　報告
十一　議事
十二　新役員挨拶
十三　閉会の言葉　　菊池春夫（遠野）

※閉会後、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議開催

感謝状贈呈

大会宣言文朗読

被災地状況報告

会報
第322号
岩手県小学校長会
代表　川村憲弘
事務局　TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町２の９
盛岡市勤労福祉会館２F
印刷　富士屋印刷所

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集して、課題解決に主体的に取り組み、着実にその成果を上げてきた。

私たちは、東日本大震災発災後からの会員の総意「明日を拓く　岩手の絆」を決して忘れることなく、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「自ら未来を拓き　共に生きる豊かな社会を創る　日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。

ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第六十三回総会の総意をもって宣言する。

一　確かな経営理念のもと、「生きる力」を育み、社会に開かれた教育課程の編成と、着実な実施、評価、改善を行い、より一層創意に満ちた学校経営の充実に努める。

一　被災地区の学校運営上の諸課題や本県全体の復興教育の現状を把握し、震災後十四年の経過を情報共有するとともに、震災の教訓を未来に継承する活動や、「いわての復興教育」を継続して推進する。

一　校長自らが主体的に学び続ける姿勢をもち、主題研究や調査研究を通じ、見識や指導性を高めるよう研鑽に励む。また、教職員の人材育成と専門性向上に資する取組を推進する。

一　互いの人権や多様性を認め、自他のかけがえのない生命を大切にし、共によりよく生きようとする資質や能力を高めるとともに、組織的な支援体制を構築し、子どもにとって安全で安心な学校づくりを推進する。

一　障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握しながら支援体制の充実を図るとともに、特別な支援を要する子どもの多様な学びの場の充実に努める。

一　学校のウェルビーイングの向上に向け、情報交換の機会の充実を図るとともに、地域社会や関係諸機関、団体と連携した働き方改革を一層推進する。

一　調査研究及び要望活動を組織的に推進し、人的措置の充実やＩＣＴ環境整備等、教育諸条件の改善・整備のための取組を促進する。

一　広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関、団体との連携強化を図る。

令和七年四月十八日
岩手県小学校長会　第六十三回　総会

活力ある教育活動・魅力ある学校経営の推進を目指して

岩手県小学校長会
会長　川村憲弘

さわやかな春の風とともに、桜の便りも県内全域に広がろうとしています。各学校では、入学や進級の喜びを胸に、子どもたちが元気に登校し、楽しく活動していることと思います。

本日ここに、岩手県教育委員会教育長　佐藤一男様、岩手県市町村教育委員会協議会会長　多田英史様をお迎えし、関係各位の御支援と御協力のもと、第六十三回岩手県小学校長会総会を開催できますことに、深く感謝申し上げます。

この三月をもって本会を退会されました五十六名の校長先生方には、岩手の教育に対し多大なる御尽力と御貢献、さらに私ども後輩への温かな御指導や御支援を賜りましたことに、心より敬意と御礼を申し上げます。

また、今年度、新たに五十四名の校長先生方を会員としてお迎えいたしました。心強い仲間として、会員一同歓迎いたします。これまでの豊富な教育実践を生かし、存分にお力を発揮されますとともに、皆様の高い意欲と柔軟な発想力で、校長会に新しい風を吹き込んでいただきますことを期待いたします。

さて、私たち校長は、今年度二年目を迎える岩手県教育振興計画の基本目標である「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり～自分らしい生き方の実現に向けた新たな時代のいわての教育～」の実現に向け、確かなリーダーシップの下、学校組織の活性化を図り、創意に満ちた特色ある学校経営を推進する必要があると考えます。また、直面する教育課題に迅速かつ適切に対応し、教職員一人一人が各自の力を存分に発揮できる職場づくりを進めるとともに、魅力ある学校づくりを一層推進することが求められています。

このような状況を踏まえ、校長として、また本会会員として、大切にしたいと考えることを三点伝えさせていただきます。

初めに、県小学校長会、会員同士をはじめとする様々な「つながり」を大切にしたいと考えます。校長自身が元気であるために、悩みや困り感を共有し、語り合うことで、日々の判断や決断の一助とし、学校経営や教育活動の活性化を図りたいと考えます。

また、各地区校長会や行政、関係機関等とのつながりも大切です。昨年度末、大船渡市で山林火災が発生しました。被害は甚大で多くの方が被災され、現在も避難所での生活を続けている方もいらっしゃると聞いております。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。県小学校長会では、気仙地区の校長会と連絡を取り、被災した地域や学校の様子について情報を集め、全県に発信しました。被災した学校からは、厳しい状況の中、同じ気仙地区や県内各地から支援物資や励ましが届き、大変心強く感じたとの声をいただきました。今後も思いを寄せ合い、思いを一つにし、目指すべき教育の方向性を確認しながら、互いの取組や各地区の情報交換に努めていきたいと思います。

さらに、行政や関係機関とのつながりも大切にしていきます。教育行政の一翼を担うという意識のもと、様々な現場の声や各種調査の分析結果を着実に届けることを通し、学校経営の充実や教育環境の改善を図っていきたいと思います。

二つ目に大切にしたいことは、我々が「学び続け、学び合うこと」です。校長自らが学び続け、互いに学び合える校長会でありたいと考えます。教育は、教師と子どもたちとの全人的なふれあいの中で、人格の完成を目指し、一人一人の子どもたちの可能性を引き出し、成長を促すという営みです。ゆえに教師には、自己の使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励むことが求められています。校長会がもつ学び合いの機能を最大限活用し、教職員のリーダーとして、教育に関する動向を的確にとらえ、最新の情報を得たり、他校の実践から積極的に学び合ったりする姿勢が、私たち校長に求められています。

そして、互いの思いや教育観、学校経営の実践を語り合うことで、確かな判断力と決断力につなげていきたいと考えます。校長自身が積極的な学びの姿を示し、他の教職員のより良い範となり、意欲と活力に満ちた創造的な職場づくりを推進していきたいと思います。

三つ目に大事にしたいことは、「魅力ある教職員を育てること」です。一人一人の教職員が確かな指導力を身に付けることで、子どもたちが大きく成長し、その成長する姿を見ることが、教職員のやりがいや充実感、達成感、職場への所属感を高めることにつながります。子どもたちの未来を育む中で、子どもたちの成長を身近で感じ、その瞬間に立ち会うことができるというこの仕事の魅力を伝えながら、存分に個々の教職員の力を引き出していきたいと考えます。

そして、子どもたちの笑顔とともに、教職員の笑顔を増やすことで、活力ある教育活動、魅力ある学校経営の推進を目指していきたいと思います。教師不足や復興教育への意識の低下など、様々な課題を抱える中、私たち校長は、岩手の教育をつくり、発展させていく教職員の人材育成に正面から向き合い、共に考えていきたいと思います。

この会場にいる校長は、各学校の最高責任者として、児童一人一人、教職員一人一人を大切にした学校経営を推進するとともに、校長同士のつながりを大事にしながら、岩手県の学校教育の充実・発展のために全力で職務の遂行に努め、最大限努力していくことを確認し合いたいと思います。

結びに、本日の総会の開催にあたり、多大なる御協力をいただきました岩手県教育委員会、並びに県内市町村教育委員会、また、総会の運営に御尽力いただきました盛岡市校長会の皆様に深く感謝申し上げ、挨拶といたします。

祝辞（要旨）

岩手県教育委員会
教育長　**佐藤　一男　様**

第六十三回岩手県小学校長会定期総会の開催に当たり、岩手県教育委員会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

まずもって、校長先生方には、各学校の最高責任者として、日々学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

あわせて、県小学校長会として、様々な教育課題への対応に向け、会員の皆様方相互の協調と連携を基調にしながら、長年に渡って組織的に御活動いただいておりますことに、深く敬意を表します。

そして、この度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、子どもたちの幸せのために、情熱と創造性をもって、学校経営に思う存分力を発揮されますよう御期待申し上げます。

さて、令和七年度が実施二年目となる「岩手県教育振興計画（二〇二四～二〇二八）」では、学校教育における目指す姿を、「岩手の子どもたちが、自分らしくいきいきと学び、夢を育み、希望ある岩手を創造する『生きる力』を身に付けている」としております。本計画における目指す姿を実現するための取組の方向性や、学校教育指導指針の中に示しております具体的な指標を御確認いただき、すべての子どもたちの自分らしい生き方の実現に向けて、各学校の特色を生かした実践の一層の充実をお願いいたします。

そして、令和六年十二月諮問における次期学習指導要領改訂に向けた動向も注視しながら、改めて、現行の学習指導要領の趣旨の実現状況を確認し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力が確実に育まれるようお願いいたします。

就学前教育との連携を深め、低学年からの学びの基盤づくりを推進するために「いわて幼児教育センター」では、「いわて就学前教育振興プログラム」に基づく事業を推進しながら、引き続き、就学前教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図ってまいります。

校長先生方におかれましては、県で策定している「教員等育成指標」に基づいた教職員の資質・能力の向上やキャリア形成に向け、積極的な対話を通して、適切な現状把握に基づいた目標設定を促しながら、教職生涯を通じて学び続ける人材の育成に向けてお力添えいただきますようお願いいたします。

また、改めて、子どもが権利をもつ主体であることを理解、尊重したうえで、多様性と包摂性のある学校文化の醸成を基盤としながら、各学校における教育活動がより一層充実することを期待しております。

結びとなりますが、今後とも、岩手の子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げ、あわせて、県小学校長会のますますの発展を御祈念申し上げ、祝辞といたします。

祝辞（要旨）

岩手県市町村教育委員会協議会
会長　**多田　英史　様**

本日ここに、令和七年度岩手県小学校長会総会が、盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げますとともに、岩手県市町村教育委員会協議会を代表し、お祝いの言葉を申し上げます。御参会の皆様には、本県の学校教育の充実と発展に御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。また、この三月をもちまして御退職されました皆様の、これまでの御尽力と御功績に対し、感謝と敬意を表しますとともに、今年度新たに校長に昇任されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

さて、県教育委員会では、令和六年三月に岩手県教育振興計画を策定し、「学びと絆で　夢と未来を拓き　社会を創造する人づくり」を基本目標に掲げ取り組んでおります。岩手の子どもたちが、自分らしく生き生きと学び、夢を育み、希望ある岩手を創造する「生きる力」を身に付けることが示されているところです。また、基本目標の達成に向けて、復興教育の充実、一人一人の可能性を伸ばす学びの確保、教育分野におけるデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の推進、家庭・地域と協働する「地域とともにある学校づくり」などを取組の視点としております。

学校においては、岩手の復興・発展、そして、地域を支える人材を育成するため、校長先生方のリーダーシップの下、各学校や地域の実情に応じた様々な活動に取り組まれているものと存じます。一方では、働き方改革に応じた業務改善や教職員の健康確保など、教育や学校を取り巻く状況は、大きく変化しており、広範にわたる対応が求められております。

こうした中にあって、私たちがなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに、「主体性」や「生きる力」を育むことであります。校長先生方におかれましては、教職員一人一人が、教育に携わることに責任と誇りをもち、豊かな人間性と、深い専門性を発揮して、教育活動に邁進することにより、子どもたちが将来に向かって自己実現を果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。

教育現場の様々な課題に対して、大いに指導力を発揮していただき、開かれた学校経営を推進し、学校・家庭・地域が協力して、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成に御尽力いただきたいと存じます。

結びに、本会のますますの発展と、皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念し、祝辞といたします。

行政説明の概要

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長兼服務管理監　佐藤　孝之　様

1　定期人事異動について（　）内は昨年度比

異動総数１，１３３名（－７３）教職員全体の１８．７％

(1)　管理職　校長昇任　７４名（－３名）　副校長昇任　６３名（－２３名）
　　小学校女性校長の割合：２６．６％

(2)　新採用　小学校教諭　１２５名、中学校教諭　８０名、養護教諭　１８名、栄養教諭は現在募集停止

(3)　暫定再任用･定年延長等　再任用２９時間勤務１４９名、フルタイム２４７名　令和５年度をピークに、暫定再任用勤務者は減少見込み。また、定年前再任用短時間勤務者３８名、高齢者部分休業については、制度の活用に至らず０名であった。

2　令和7年度重点事項

(1)　人材確保・人材育成について

採用試験倍率が昨年度２倍を切る状況。今年度、第１次選考での論文廃止、第２次選考でのピアノ弾き歌いの廃止､大学３年生受験及び幼稚園教諭経験者特別選考の新規導入等､選考方法の大幅な見直しを図っている。講師未配置校が依然多くある状況。ペーパーティーチャー説明会の拡大実施や県外大学への採用試験の説明等に取り組んでいる。講師に係る情報について広く提供をお願いしたい。

人材育成については、講師、新採用者の人材育成とともに、採用されて間もない若手教員の退職を防ぐための取組についてお願いしたい。また、教育実習校や教育行政で力を発揮し得る人材、管理職任用試験で主幹教諭受験者となり得る人材の育成についてもお願いしたい。

(2)　不祥事の未然防止について

昨年度懲戒処分の件数は１１件。免職等、重い処分も出ている。今年度は特に、飲酒運転の根絶及び不適切な指導の根絶に向け､取組を徹底していく。全職員に当事者意識の醸成を図り､「再発防止岩手モデル」の趣旨にのっとった「子どもの人権を第一に考え、これからのより良い指導のあり方について職員全員で考えること」が大切である。

(3)　働き方改革の取組について

「教職員の心と体が健康であること」が健全な教育の大前提である。学校運営上、必要不可欠なもの、時代に合わせ削減できるものを見極め、ゆとりをもって教育活動が進められる環境づくり、職員同士の適切なコミュニケーションを大切にしながら、心が通い合う、働きやすい職場づくりへの取組についてもお願いしたい。

すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現をめざして

学校教育室首席指導主事兼義務教育課長　佐々木　淳一　様

令和七年度の指導行政は、「全ての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現を目指して」を掲げ、一人一人の人生を支え続ける資質・能力を育む学校教育の充実を目指していく。学校のウェルビーイングとは、「子ども・保護者・教師・地域」などそれぞれのウェルビーイングの総体であり、校長先生方においては、学校教育目標の実現に向けた取組を展開していく中で、学校に関わる人たちのウェルビーイングを育てていただくようお願いしたい。

次に、「いわて県民計画」第二期アクションプランについて、「自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の割合」については、復興教育やコロナ禍以降に再開された地域学習等の充実を図っていくことが望まれる。「教育活動全体における話すことや書くことの言語活動の充実」、「諸調査結果等で明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善」、「家庭での自主学習を含めた学習習慣の形成」については目標値に及ばず課題と考えており、主体的・対話的で深い学びの実現を視点とした授業改善､「子どもを主語にした学び」の構築に努めるとともに、家庭学習を含めた児童生徒の「学びに向かう力」の育成に注力する必要があるととらえている。「人が困っているときは、進んで助けようと思う」、「多様な意見を認め合うことに価値を感じている」といった人との関わりに関する部分に関して、人権意識、道徳的実践力の育成、多様な意見をもつ者との共生など、教育活動を通じて望ましい人間関係を育んでいく学校風土の醸成をお願いしたい。そして、子どもたちや地域の実態、学校の特色や独自性を踏まえ、必要な項目を、学校評価等に織り込みながら、実践と改善を図るようお願いしたい。

教育の本質は、教師と子どもたちとの人格的なふれあいであり、子どもたちの人格の完成を目指し、その成長を促す営みである。教育者としての専門性と愛情、経営者としての知見とマネジメントにより、全ての子どもたちの学ぶ権利を保障し、校長先生自身が願う理想の学校をつくりあげる一年にしてほしい。

学校が果たすべき役割の多様化については、「教育活動の充実」と「働き方改革の推進」を一体的に進めなければならない。「学力向上の取組」と「不登校対策」や「いじめ対応」は､学校教育のバロメーターとして、改善を目指し続ける必要がある。学校におけるＤＸの推進では、デジタル教科書等を活用した指導法の構築、全県で導入が進められている統合型校務支援システムを適切に活用するための取組など、「令和の日本型学校教育」を担う教員の育成も不可欠である。組織マネジメントを通じて、各職員の経験値や持ち味を生かすとともに、ＯＪＴを通じて、若手、ベテラン、主任層それぞれに応じた人材育成を意図的に行っていくことも重要である。

知を与えるには、先生と子どもたちの信頼関係や親和関係が前提となる。まずは、全ての学校、学級において、子どもたち一人一人が活躍できる出番や学ぶ機会がある、温かい授業づくりをお願いしたい。県教育委員会は、校長先生方の応援団である。「チームいわて」として岩手の子どもたちのために力を合わせていきたい。

地区校長会研究交流

ふるさとを愛し、共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の教育を目指して

岩手地区小学校長会

一　はじめに

岩手地区校長会は、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町の二市、三町の小学校二十九校、中学校十五校、小中併設校二校の計四十六校の校長で組織されています。

岩手地区校長会は、結成以来「岩手地区の教育の振興に寄与する」目的を達成するため、会員相互の協調のもとに校長としての識見や力量の向上を目指し、研鑽と実践とを組織的に積み重ねてきました。また、当面する教育諸課題の解決を図る取組を主体的に推進するとともに、地区内における教育諸条件の整備・充実に努め、成果を上げてきています。

昨今の様々な教育課題に対応すべく、会員相互の連携と経営実践の交流・研鑽を通して、自らの学校経営についての力量の向上を目指しています。また、学校運営協議会制度を効果的に活用した学校経営や、より充実した児童生徒の教育を目指した教職員の指導力向上など、児童生徒や保護者、地区内地域住民の要請と期待に真摯に応えていけるよう努めているところです。

二　活動方針

（一）　学校経営上の課題に対し、創造的で開かれた学校経営の改善と充実を図る。

（二）　学習指導要領の着実な実施と、教育課題を踏まえた学校経営の改善と充実を図る。

（三）　教育諸条件に関する調査及び教育環境改善の具体化に係る活動の充実を図る。

（四）　会員及び市町校長会相互の理解と連携強化を促進し、諸事業の充実を図る。

（五）　地域及び教育関係機関・団体等との一層の連携強化を図る。

（六）　東日本大震災の教訓を次世代につなぎながら、地域の実情に合わせた復興教育の一層の深化・充実を図る。

（七）　進展する情報化や教職員のウェルビーイングの向上に向けた学校における働き方改革への対応を推進する。

三　活動内容

（一）　研究主題

岩手地区校長会では、次のような研修主題に基づき研修を進めています。

【共通主題】

「ふるさとを愛し、共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の学校教育」

【小学校主題】

「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

（二）　地区校長会研究大会

本年度は、岩手町において、「第五十三回岩手地区校長会研究大会」が開催される年になっています。研究大会に向けて、精力的に研究実践に取組んでいきます。

◆開催期日

令和七年十月三日（金）

◆会場

サンセール盛岡

◆研究発表

《小学校部会》

○葛巻町校長会

評価・改善②の発表

○滝沢市校長会

連携・協働②の発表

《中学校部会》

○滝沢市・雫石町校長会

学校経営の発表

四　各市町校長会の研究

◆八幡平市校長会

※新テーマのもとで研究を進める。

◆滝沢市校長会

・研究主題

「異校種間における円滑な接続と連携の推進　～幼保こ小中における『学び』と『育ち』の連続性を大切にした連携の在り方と校長の役割～」

◆雫石町校長会

※新テーマのもとで研究を進める。

◆葛巻町校長会

・研究主題

「ふるさと葛巻の未来を担う子どもを育てる学校経営～ＣＳ活性化のための学校評価・教職員評価の在り方～」

◆岩手町校長会

・小学校部会研究主題

「知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善における校長の在り方」

五　おわりに

岩手地区校長会では、時代の進展とともに刻々と変容する教育諸課題に対応しつつ、「いわての復興教育」を教育の根幹に据え、郷土への誇りと愛着を醸成し、地域の担い手を育成する教育を目指していきます。

特に、今年度は岩手地区校長会研究大会の年度となることから、各市町校長会の研究実践をもとに、活発に実践交流を深め、その成果を各市町の学校経営の一層の改善に生かしてまいります。

（岩手町立沼宮内小学校　後澤　大世）

新たな教育課題への対応

当たり前を見直し、教職員も子どもも幸せに

～強みから業務改善、そしてウェルビーイングへ～

二戸地区小学校長会(仁左平小学校の実践から)

一　はじめに

本校は全校児童二十六名の小規模校で、完全複式の学校である。児童数が少ないので、物理的な学級事務量は比較的少ないのだが、悉皆の出張に何度も出向いたり、校務分掌の担当が複数にわたったりするなど、決して業務量が少ないとは言えない。むしろ多岐にわたる業務を並行して行わなければならず、その負担感は大きいと言える。そのような状況の中、本校の強みを生かしながら教職員のウェルビーイングはどうあるべきかを試行錯誤している。

二　本校の強みを業務改善へ

本校の強みは、何と言っても「小回りの良さ」である。言い換えると様々な物事の「共有」である。低中高の三学級と、特別支援学級を合わせた四人の担任が常に職員室で情報を共有できる風通しの良さがある。全校で取り組む行事について常に改善点を言い合い、リビルドを繰り返していく。

しかしながら、それぞれの学年で進める活動については、担任同士がお互いを尊重し合うあまり、独自に行われている様子が見受けられていた。せっかく「共有」できる素地があるのにもったいない感がある。そこで、教務主任・研究主任・生徒指導主事（もちろん担任兼務）の立場で担任が「共有」できる情報を「見える化」し整理したことをもとに、まなびフェストの「知」については教務主任と研究主任、「徳」については生徒指導主事、「体」については保健主事に提案させ、達成目標を数値化して学校経営に反映させた。校長は常にその取組を評価し、教職員に感謝を伝えながら声をかけてきた。

するとそれぞれの学年の活動のベクトルが同じ方向を向き始め、もともとの強みであった「小回りの良さ」が各学年の活動にも発揮されるようになった。職員室ではうまくいかないことや、学習進度が遅れていることなど教師の困り感を遠慮なく言い合える雰囲気がますます醸成され、そこに副校長がアドバイスをしたり、人的物理的補充を考えたりして調整役を担った。

三　ウェルビーイング探し

もとより教職員が元気でなければ、子どもたちは元気にならないと常日頃から口にしていたのだが、ただ退勤時刻を早めるように声をかけたところで、教職員には自分の業務推進ペースがあり、それがベースになってやりがいを実感していることは、自分自身の経験から痛いほどよく分かっているつもりだった。具体的な業務改善方法を考え、実際に運用に踏み切る最終判断はやはり校長にしかできないことだと思う。

そこで、毎月の学校安全衛生委員会の内容を見直し、改善していくこととした。教職員の困り感を吸い上げ、その対策と改善策を話し合う場とした。これまでは、教職員の超過勤務時間の数字を並べて、多い教職員に声をかける程度であったが、困り感そのものにスポットを当て、物理的・精神的支援策を考える場になってきた。一例として、分掌業務が過多となっている教職員に声をかけ、分担できる業務はこちらで請け負ったり、他の教職員に協力を要請したりして、困り感の解消を図った。まだまだ課題は多いものの、まずはやってみようの心意気で取り組んでいる。

四　終わりに

「先生になって夢がかなった。」「この学校に赴任してとてもうれしい。」このような言葉を言ってもらえることは、管理職にとってこの上ない喜びである。夢や希望をもって着任した新採用の教職員や、新しい職場に大きな期待をもって赴任した教職員の思いに応えるために、教職員のウェルビーイングを常に考え大切にした学校経営を推進したいと思う。そのことが、子どもたちのウェルビーイングにつながっていくことは間違いないと信じている。

（二戸市立仁左平小学校　吉田　悟）

令和７年度
岩手県小学校長会役員

会　　長（１名）

盛岡地区　盛岡市立津志田小学校長　川村（かわむら）　憲弘（あきひろ）

副 会 長（４名）

盛岡地区　盛岡市立仙北小学校長　村田（むらた）　浩隆（ひろたか）
遠野地区　遠野市立遠野小学校長　菊池（きくち）　春夫（はるお）
胆江地区　奥州市立南都田小学校長　佐藤（さとう）　斉（ひとし）
二戸地区　二戸市立福岡小学校長　筒井（つつい）　裕一（ゆういち）

会計監事（３名）

花巻地区　花巻市立八幡小学校長　菅崎（かんざき）　晋（しん）
気仙地区　大船渡市立末崎小学校長　菅原（すがわら）　宰喜（さいき）
宮古地区　宮古市立磯鶏小学校長　今西（いまにし）　顕隆（けんりゅう）

常任理事（５名）

総 務 部　盛岡市立仁王小学校長　金野（こんの）　治（おさむ）
行財政部　盛岡市立桜城小学校長　佐々木（ささき）　寿洋（としひろ）
研 修 部　盛岡市立上田小学校長　石亀（いしがめ）　健（たける）
広報・編集部　盛岡市立向中野小学校長　三浦（みうら）　建成（たけなる）
生徒指導部　盛岡市立中野小学校長　武藤（むとう）　美由紀（みゆき）

事 務 局（２名）

事務局長　金野（こんの）　治（おさむ）
常勤書記　石亀（いしがめ）　智美（さとみ）

理　事　　**評議員**

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	北松園小	有馬　賢	高松小	野崎祐司	羽場小	齋藤研一
			玉山小	桑原玲子		
岩手	平舘小	長山政志	御明神小	布田　貢	小屋瀬小	田中　亨
紫波	煙山小	小原　賢	西の杜小	石川修司		
花巻	大迫小	晴山光弘	南城小	東海林泰史		
遠野	遠野小	菊池春夫	青笹小	鈴木久美子		
和賀	飯豊小	佐藤加奈子	和賀西小	大鷹　真		
胆江	南都田小	佐藤　斉	衣川小	古山昌幸	稲瀬小	髙橋由佳
一関	一関小	菅原正樹	山目小	菊池正人	千厩小	伊東洋司
気仙	高田小	佐藤　健	猪川小	佐々木　哲	有住小	新沼　健
釜石	唐丹小	戸羽太一	釜石小	五安城正敏		
宮古	宮古小	福徳　潤	小本小	中軽米幸治		
久慈	久慈小	佐藤隆司	長内小	小関　稔	普代小	黒渕博文
二戸	福岡小	筒井　裕一	軽米小	佐藤伸之		

専門部担当理事・専門委員等

（◎は部長）

総務部担当理事（６名）
有馬　賢（盛　岡・北松園）
菊池　春夫（遠　野・遠　野）
佐藤　斉（胆　江・南都田）
筒井　裕一（二　戸・福　岡）
村田　浩隆（盛　岡・仙　北）
◎金野　治（盛　岡・仁　王）

行財政部担当理事（３名）
福徳　潤（宮　古・宮　古）
佐藤　隆司（久　慈・久　慈）
◎佐々木寿洋（盛　岡・桜　城）

研修部担当理事（３名）
小原　賢（紫　波・煙　山）
菅原　正樹（一　関・一　関）
◎石亀　健（盛　岡・上　田）

広報・編集部担当理事（４名）
佐藤加奈子（和　賀・飯　豊）
佐藤　健（気　仙・高　田）
戸羽　太一（釜　石・唐　丹）
◎三浦　建成（盛　岡・向中野）

生徒指導部担当理事（３名）
長山　政志（岩　手・平　舘）
晴山　光弘（花　巻・大　迫）
◎武藤美由紀（盛　岡・中　野）

行財政対策委員（５名）
大澤　滋（盛　岡・飯　岡）
吉田　洋倫（盛　岡・大慈寺）
山本　一行（盛　岡・北厨川）
三上　瑞穂（盛　岡・太　田）
鷹觜　三和（盛　岡・月が丘）

調査研究専門委員（６名）
君塚　裕子（盛　岡・河　北）
中村　宗宏（盛　岡・本　宮）
小澤　則幸（盛　岡・緑が丘）
木内　隆友（盛　岡・大　新）
渡辺　信子（盛　岡・見前南）
三浦紀久果（盛　岡・好　摩）

広報・編集委員（５名）
浅利　宏光（盛　岡・太田東）
西舘　修治（盛　岡・松　園）
栃内　宏之（盛　岡・永　井）
佐藤　修（盛　岡・都南東）
大場江利子（盛　岡・巻　堀）

生徒指導委員（５名）
小田島晃司（盛　岡・東松園）
八木橋信也（盛　岡・杜　陵）
釜石　由仁（盛　岡・米　内）
内田留美子（盛　岡・山　王）
山内　弘文（盛　岡・見　前）

全連小理事（２名）
川村　憲弘（盛岡・津志田）
金野　治（盛岡・仁　王）

全連小基金管理委員会（１名）
佐々木寿洋（盛　岡・桜　城）

全連小人権教育委員会（１名）
武藤美由紀（盛　岡・中　野）

全連小各部担当者（３名）
⑴対策担当者
佐々木寿洋（盛　岡・桜　城）
⑵調査研究担当者
石亀　健（盛　岡・上　田）
⑶広報担当者
三浦　建成（盛　岡・向中野）

全連小総会代議員（３名）
佐藤　斉（胆　江・南都田）
菅原　正樹（一　関・一　関）
新沼　健（気　仙・有　住）

東北連小理事（２名）
川村　憲弘（盛　岡・津志田）
村田　浩隆（盛　岡・仙　北）

東北連小監事（１名）
三浦　建成（盛　岡・向中野）

東北連小委員（２名）
⑴教育課程委員
石亀　健（盛　岡・上　田）
⑵対策委員
佐々木寿洋（盛　岡・桜　城）

理事会・評議員会合同会議

生徒指導部合同会議

総務部･地区事務局長合同会議

編集後記

総会での赤崎小学校高室校長先生のお話から、改めて二月に発生した大規模林野火災の猛威と、子どもと教職員を守り抜くため奔走した校長先生方の御努力の一端をうかがい知ることができました。

子どもたちの心のケアと授業再開、一方で被災した教職員の生活再建も見据えながらの学校運営は本当に大変だったと思います。私たち校長は、「何が起こるか分からない」ではなく、常に「備えておくこと」が大事であることを再認識いたしました。

新しい年度が始まり、それぞれの土地での新たな出会い、そして各学校ならではのドラマが進行中のことと思います。総会でいただいた激励のお言葉や行政説明の内容をかみしめながら、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができる一年にしたいと思いました。そのために、総会で川村会長が述べた「つながり」を大事にし、広い県土の隅々まで校長会はつながっていることに感謝し、勇気をいただきながら、情報発信等の任に当たってまいりたいと思います。

会員の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

（広報・編集部　三浦　建成）